

第3回須賀小学校地域拠点施設検討委員会議録

1 開催日時

令和7年1月9日（木）19:00~20:50

2 開催場所

宮代町役場 202 会議室

3 出席者

（委員）

佐々木誠委員長、中村隆委員、上田悟委員、金野泰久委員、唐松奈津子委員、
矢戸ゆみ委員、川野達則委員、斎藤夏未委員、荒木義雄委員

（事務局：町民生活課、子育て支援課、教育推進課）

新井庸一 町民生活課長、柴崎記代子 子育て支援課長、田中啓之 教育推進課長
小川雅也 教育推進課副課長、加藤正久 町民生活課主幹、嘉茂達哉 教育推進課指導主
事、高橋道彰 教育推進課主査、埜中美也 教育推進課主任、須原大輔 教育推進課主事、
矢口陸 教育推進課主事

（須賀小学校地域拠点施設基本設計業務委託受託業者）

株式会社東畑建築事務所 久保久志、門脇寛子、株式会社 Life Work 内海慎一

4 欠席者

（委員）

原田幸代副委員長、石井大晴委員、谷義明委員、星野花恵委員、諸星香代子委員

5 次第

1 開会

2 先行工事の実施について

3 第2・3回ワークショップ報告

4 配置計画について

5 意見交換

6 その他

7 閉会

6 議事（要旨）

1. 開会

佐々木委員長より挨拶。

2. 先行工事の実施について

事務局：今後の整備推進を進めていくにあたりまして、既存の施設上で建築基準法上問題のある箇所がありましたので、先行して是正工事を実施します。

現在、体育館と小学校を繋いでいる歩道橋があると思います。そちらにつきまして、建築基準法上の手続きが取られていなかった状況です。こちらを是正しないと整備を進めていくことができない事情があります。是正内容ですが、歩道橋についている屋根を撤去すること、第2校舎と歩道橋が接続されている箇所についての接続を外すことの2点となります。また、歩道橋自体は残ります。予算につきましては12月の議会の補正予算で可決をいただき、1月～3月の間で工事を実施する予定です。工事期間中ですが、横断歩道に警備員を配置するなど安全対策を実施していきます。今後、小学校・中学校の保護者に対して、工事内容の説明を予定しています。

3. 第2・3回ワークショップ報告

内海氏：第2・3回ワークショップについて、配布資料2に沿って説明。

第1回目に学校と自分の距離感を考えようという内容で、それは心の距離だったり物理的距離だったり、いろんな距離がある中で例えば、お互いに挨拶しあえるとかあだ名で呼び合えたり、学校の中がしっかり見えるとか、そういったような施設だと距離が近まって、新しい学校、新しい施設になるんじゃないかという意見が出ました。それらを深掘りしていくうえで、距離のその先を話し合おうということで、第2回は4つのテーマで話し合いました。1つ目は子供たちの方がですね、逆に地域のエリアに来る、そうすることでより関係ができたり、心の距離が縮まったりとか、2つ目は地域の方がこの施設そのものにどうやったら来てくれるかっていう話と、3つ目は心の距離がより近づくにはどうすればいいかという話で、4つ目はそういった距離を縮める人・繋ぐ人っていうのはどんな人だとかいいかみたいな話をさせてもらいました。1つ目でいくと、例えば季節の行事の飾り付けを一緒にできたりとか、地域の方が自分の本を貸し出してそれを子供たちが読みたくなるとか、そういった場所があると子供たちが地域施設側の方に自然に来るんじゃないかなとか、2つ目でいくと、子供が先生になって教えたり、地域のあの人が料理を作る、振舞ってくれる、みたいなところだったりとか、単純に散歩コースになってるとか、季節を感じる植物があって、ちょっと行ってみようかなとか、そういった気軽に立ち寄れる場所になってくるといいんじゃない

かなと。その中で、ポイント制とか学割とか、あとドンピマナーみたいなものもあったりして、ここでお手伝いとかすると、そういったものが貯まるといいんじゃないかみたいな意見もありました。3つ目の心の距離の近付け方は右側に大きく書きましたけども、やっぱり名札や名刺があるといいんじゃないとか、一緒に何かをする中で関係性ができたり、そのためには、共有スペースから活動が見えたりとか、中庭のような場所があって、何かできるといいなということでした。また、基本構想からあるコーディネーターの話が4つ目です。4つ目はですね、役割とするとその人は人と人を繋げたりとか、子供と一緒に楽しんで何かをやっていくなど、人柄が結構大事で、話しかけやすくてフレンドリーだとか、笑顔の時間が多いとか否定しないとか、でもちゃんと約束とか法律を守れるとか、きっかけをくれたり、そういったいい意味でおせっかいな人がいると良いんじゃないかと。ただ1人だと大変なので、グループでそういった特性を組み合わせながらコーディネートしていくってこともできるんじゃないかと。パパネットの皆さんともぜひやれたらという話が出てきました。というのが2回目です。それを踏まえて、この後皆さんにまたお話するものとほぼほぼ近いんですけども、図面を3回目に見えに皆さんに見せて、図面と模型を見ながら話をしていきました。各グループからいろんな意見が出たんですけども、良いと思いますなどの意見が多くありました。グループAでは例えばペットを連れてこれるだとか、モルックができる場所があるといいなとかキッチンカーが入れる場所があると、そこにちゃんと外部電源を置いてくれみたいな話、最近この近隣でもたくさんマルシェとかもやられていて皆さんのスキルも溜まっていますので、そういった具体的な意見が出てきたりとか、グループBでいくと、何か食事会とかバーベキューみたいな火を使うみたいなことも何かルールがうまくできると良いんじゃないとか、餅つきができたりとか、中高生の居場所ってこともしっかりと考えてもらえるといいなという話がありました。Cグループでいくと、地域の方とゴーヤカーテンを作りたいもそうですけど、理科室のそばで、大人の理科というか、そういったちょっと大人になってからできるようなことができたりとか、あとは下に書いてますけど花を植えたり畑で作物を育てたり、何かしら地域の方が一つでも関われるような要素というのがあってくれると行きやすいんじゃないかという話がありました。Dグループは少し観点が違って、どんぐりピアノをどこに置いたらいいか、みたいな話をとても大切にしておそこから話し合いがスタートしています。その他だと畑を作ったりとか、車椅子の方でも来れるような、誰でも来れるような場所、みんなが来なくなるような場所を作ってほしいという話で、グループEに関しては、この建物全体を見たときに、まるで一つの街かのようにいろんな要素があるように見えると、ハレの日でもケの日でも受け入れてくれるような場所だといいな、イベントをやったりとか、日常で訪れたりとかできる場所だと良いといった話があ

りました。それらを踏まえて、この後図面を皆さんに見てもらうことになるかと思ひます。

佐々木委員長：参加された方もいらっしゃると思ひますので、まずは第2回について感想などお聞きできればと思ひます。

穴戸委員：地域拠点施設の整備状況の理解度について、役場側の進みと地域の方々の理解度の間でまだまだギャップがあるのかなと感じました。いい意見は沢山あったと感じました。テーマ4つ目のところでは、「キーになる人」・「繋ぐ人」について実績のある方に頼って進めていく方がよいのではとの意見がありました。パパネットや読み聞かせなどの学校応援団の方とかにも協力してもらえるのではと思ひます。

荒木委員：どういふ方がコーディネーターにふさわしいんだろうかとの議論が多くされていた印象です。ここが軸になるのではないかと説っていた方が多かったです。テーマ4つ目の人と人を繋ぐということでこのコミュニティセンターを運営していく上で、私も軸になっていくと感じています。地域の皆さんはここが軸になるからこそ、期待もあるし、不安もあるしという感じでしたので、安心して利用してもらうためにも大事に話をしていく必要があると思ひました。

佐々木委員長：次に第3回について、感想などをお願いします。

唐松委員：参加された皆さんが沢山アイデアを出していて、盛り上がっていた雰囲気が一番印象に残っています。今後出てきたアイデアを現実的に検討していく中で、やりたいことと安全性や運用面のところで調整していく必要があると思ひます。まずは、ハードから施設を決めていくと思ひますが、ある程度の運用面についてもイメージしながら考えていく必要があると感じました。

荒木委員：幅広い意見が沢山出ていて面白かったです。その中でも小学校と地域を繋ぐ中で、学校の教室だけではなく、子供たちが食事する場所を自分たちで選べると自由で面白いよねと、もちろんセキュリティをしっかりとする必要もありますが、地域と食事も通して交流できるのではとの意見もありました。部活動だけじゃなく、地域で子供と大人が交流して様々な活動ができるといいよねとの意見もあり、それが運用されると理想的だと感じました。

佐々木委員：地域の活動について、面白いなと感じましたが、地域の部活動のようなお話もでていたんですか。

荒木委員：学校の部活動だけではなく、コミュニティセンターの中で子供と大人が活動できる地域クラブができるといいよねとのお話がでていました。

佐々木委員長：場所という言葉もありましたが、例えばばどこがいいよねなどのお話はありましたか。

荒木委員：テラスなどの外で食事出来たら、風景を見ながら気分を変えたり、地域の方と交流できるのではとのお話がでていました。

4. 配置計画について

配布資料3に沿って説明。

東畑建築事務所：第2回の推進委員会では、D-3案という案をお示ししましたが、本日は第3回地域ワークショップでお示しさせていただいたD-10案を皆さんのお手元に配布しています。多くの議論を経て、現在の案になっていますが、ここらへんの話を少し丁寧に、なぜ今この案に至ってるのかっていう話を先にさせていただいてからご意見をいただければと思います。D-3案では職員室が当初2階にあったものを1階にしたという計画案でした。それは須賀小学校さんといろいろお話している中、1階の方がやはり使いやすいということと、日常の子供たちの見守りだとか、地域の主体が1階になっていきますので、2階に職員室があるよりも、やっぱり1階の方が有事の対応もしやすいよねっていうことで変更をしています。次に、2階の教員コーナーという、あまり聞き慣れない場所がいくつか点在しています。こちらについても職員室が1階で子供たちが普通教室とか全部2階に行ってしまうので、そうなってくると、常駐する先生が1階に集中してしまいます。それだったら教員コーナーが点在していることで、授業時間、それ以外でも先生が滞在することができます。先生がここにいることで、普段だと教室の先生としか触れ合うことないかもしれないんですけど、他学年の子供とかも先生と触れ合うことができたりとか気軽に相談とか質問ができるようになると思います。これは須賀学校の先生とワークショップの方を12月3日にさせていただいてそこでもすごい好意的な意見をいただきました。次に特別支援教室ですが、職員室を1階に持って行ったことで、特別支援教室は離れていいのかっていう話があったんですけど、そのときには学校との相談が必要だと思ってますっていう話をしたんですけど、ワークショップの方でも先生と議論させていただいて、近接する必要はないんだけど、子供たちのことを考

えると 2 階にある方が良いと。有事など何か災害があったときとか、すぐに避難がしやすい場所になるべく特別支援教室は近い方がいいねっていうことでした。次に、元々の A 案では学童保育室が職員室側で、そのすぐ近くに学童保育の専用の箱庭があったんですけど、それがなくなったことについて D-10 案では、学童保育室のエリアの中に中庭を作っています。次に、学校周りの既存木については、これだけ豊かに学校の中に木があるのも珍しいですが、カエデの木は残すとともに中学校との境目にある豊かな既存木を中心にグラウンドを広くとるうえで、ある程度伐採する必要はあります。例えば伐採した木を使って、家具を作ったりだとかいろんな転用の仕方はあると思うので、ただ切るだけではなく記憶に残るような形にするのもいいと思います。次に和戸公民館の部屋についてですが、現在和室の方が大きくて洋室が小さいと思います。現在の使われ方が和室なんですけどテーブル置いて使ったりだとか、足の悪い方が使いにくいということなので、D-10 案では活動室 1・2 という形で、それを逆転させていただいて、活動室 2 を洋室的に使える大きな部屋にしつつ、活動室 1 を例えば畳敷き、壁はふすまが何かにしといて、一体的に活用するなどが出来ると形が良いと思っています。これから実施設計はまだまだ続いていきますので、公民館利用者の方含めていろいろな方にまだまだ意見を聞きたいと思っています。次にメディアセンターの地域開放の仕方ですが、第 3 回目のワークショップでもすごくたくさん意見が出ている中で、図書館として利用したいっていう方もいらっしゃっていて、たくさん意見が出ていました。今回 D-10 案ではメディアセンター 1 がにぎやかなメディアセンターで、奥まったところにちょっと静かに学習ができるメディアセンター 2 を分散させていただきまして、さらに交流スペース 2 の方にも、メディアセンターのようなものを分散させています。どうしてもセキュリティの方が気になると思いますので、今日もセキュリティの話をいろいろお話聞きたいと思っています。次に、これがすごくたくさん意見として聞かれましたところなんですけど、地域の人からやっぱり活動が見えるといいねというようなことでした。そこで、一番の大きな変更点ですが、多目的のホールについて、以前は中学校側にあったんですがそれをグラウンド側に持ってくることによって、外からもその様子を見ることができますし、この広場を挟んで、学校側からも多目的ホールを見ることができるようになっています。これは大きな変更点であり、すごく皆さんのご意見でよくなったところだと思います。次に、セキュリティの話です。お手元の案を見ていただきたいんですが、まずは敷地の外から施設の中に入るセキュリティが大事だと思うんですけど、ブルーの点線のところが何かしらのフェンスみたいなものが必要なエリアかなと思っています。敷地境界線にフェンスを作るのではなく、ちょっとセットバックしたところにフェンスがあるのがわかると思います。街の中の学校って

うことを考えたときに、今道路に歩道がなかったりするので、ちょっと学校がセットバックしてあげることによって安全に往来できるように、街角じゃないですけどこういうちょっとコーナー部分とか、角の部分とかベンチがたくさん置いてあると、ちょっと地域の人が休憩したりだとか、子供たちと交流したりするような場所があるといいなということで黄色の部分で配置させていただいております。次に施設の中のセキュリティの話なんですけど、この赤の点線書かれているところがセキュリティラインです。これは壁っていうことではなくて、扉を想定してまして、それを施錠出来たり、ＩＣカードみたいなものやナンバー番号を押して開くようなもの等の電気錠などが考えられます。１点難しいところがあって、メディアセンターの大階段についてです。ちょっと発表学習ができるようなところなんですけど、ここが大きい階段で、どうしても２階に上がってしまうので、何かこの辺りにシャッターか何かで区画できるといいなというふうに思ってるんですけど、ここはちょっと工夫が必要です。それ以外は赤の扉を閉めれば２階に上がることができなくなるので、セキュリティ区画はできるかなと思っています。ここまでがＤ-３案で挙げられた疑問点に対する変更点等です。次に先生方とワークショップをしながら、変わったところがいくつかありますので、もう少し細かいところを説明します。小学校の１階の職員室周りについて、職員室、校長室、保健室っていうのはやっぱり連携が日常的に結構必要な場所になってきます。これを近接しながら、全部扉で繋ぐっていうのはなかなか大変そうなので、例えば仮に扉をつけたとして、何か前室みたいなものを設けさせていただいて、そこからすぐに移動ができるようにするのも良いかなと思っています。前室みたいなものを設けることでその行き来をしやすくするアイデアで、これは学校の先生にいただいたものです。また、職員室のカウンターなんですけど、子供たちや地域の方がやってきたときにカウンター形式にすることによって呼びかけしやすい、窓口対応しやすいような形になるといいなということでここを変更しています。次に、放送室は昔であれば先生たちも結構使う場所だったので、１階にあったんですけど、最近は放送設備が職員室の方にもあったりするので、必ずしも放送室に行かなくてもいいですし、放送室を使用するメインって子供たちなので、これも１階から２階に変えています。場合によっては防音室にしておいて、地域の人たちが外からの防音室を使えるようにすれば音楽活動をする人たちがこの部屋を使用することができるんじゃないかなと思っています。次に、体育館の更衣室なんですけど、先生に聞くと、ここでは更衣しないっていう話でしたが、ただ地域開放したときだとか、有事のときは必要ということで残しています。地域開放時に会議をしたり、打ち合わせするような小スペースがあった方がいいかもねっていうことで、兼用できるようなスペースとしています。また、防災倉庫の荷捌

きスペースとしても使えるようになるなと思います。次に学童保育室なんですけど、多目的ホールをグラウンド側に持っていったことによって、保育室3を中学校側へもってきて、1と2だけが繋がってる状況になっています。ただ、そうすることで学童保育室3は裏庭との近い関係も生まれましたし、交流スペース2との関係もありますので、例えば子供たちの数が減ったときは、地域側の部屋として取り込むなどのいろんな転用の可能性もあるということで、保育室3をこっちに配置させていただいています。ただ、1と2は合わせて大きな活動ができるっていうのが魅力だったので、D10-案でも一体的に使うこともできる、中庭を使うこともできるようにしています。また、体育館にもアプローチしやすい、グラウンドにもアプローチしやすい形としています。

以上が先生たちのワークショップを受けて変わった変更点です。

5. 意見交換

佐々木委員長：丁寧の説明していただきましたけども、なかなか建築の図面を見慣れていないと理解し難いかもしれません。模型をみなさんで見ながら意見交換をしたいと思います。

東畑建築事務所：屋根について、細かく分けられていますが、住宅街なので1枚だと圧迫感があるので、複数に分けています。また、光が入りやすいところからも分けています。初代町長の空が広い町をつくる、高い建物をつくらない考え方についても大事にしたいと思い、このような形にしています。

唐松委員：この形にすることでのデメリットはありますか。

東畑建築事務所：水の問題がありますので、漏水しないように対策したいと思います。

穴戸委員：お掃除はどうするんですか。

東畑建築事務所：対策していきたいと思います。

金野委員：教室に付随したベランダはありますか。

東畑建築事務所：今のところ付随させる予定はないです。全国的には無くしている状況です。

金野委員：教室の外側の窓ふきは業者が行う形ですかね。

東畑建築事務所：そうなると思います。

穴戸委員：窓に柵はつきますか。

東畑建築事務所：今後の検討によるところです。換気と落下防止は相反するものなので、検討が必要です。

上田委員：私の意見では、特別支援教室は職員室に近い方が良いと思います。
また、歩道橋は撤去しないですね？

事務局：撤去はしません。今後も小学生は通学、中学生が授業で使います。

上田委員：現在、体育館に子供たちが行くときに内履きと外履きが混在しているため、質問しました。

佐々木委員長：1階について何か意見はありませんか。

穴戸委員：メディアセンターが図書館のようなイメージですか。

東畑建築事務所：その通りです。

穴戸委員：一般の方も入ってくるなら不安です。

東畑建築事務所：今後メディアセンターについて、運用を検討していくことになります。
子供たちがいる時間に一般の方を入れるにはハードルは高いかもしれません。

穴戸委員：学校に行っている間は、安心できると思ってるので、一般の方と交わると心配です。書架で分けけている事例等もあったと思います。

事務局：そういう心配もありますので、セキュリティラインを作ること、運用の検討を今後行っていきます。

佐々木委員長：ハードとしてできることは、死角を作らないことが大事だと思います。
奥まったスペースで作業できるのもいいとは思いますが、親の目線だと心配にはなるかもしれません。

上田委員：先生方の中で、まだまだこの須賀小学校地域拠点施設のイメージがついていない方々もいるので、ワークショップではなく説明会等を実施してほしい。

東畑建築事務所：実施を検討していきたいと思います。

事務局：庁内でも検討していきたいと思います。

佐々木委員長：セキュリティについて、もう少し話し合いをしていきたいと思います。
フェンスがあるということは、鍵を閉めること結構ある感じでしょうか。

東畑建築事務所：そこについては、どう運営するか検討が必要だと思います。
夜はもちろん施錠することになるとは思います。

金野委員：授業間休み等に子供たちが校庭に出ます。
地域の方々と交わることになると思うので、校庭が公園のようなイメージになるのかなと思います。外に遊びに行くような感じでしょうかね。

佐々木委員長：今の職員室の配置だと、校庭を監視しにくいような気がします。
もう少し、監視の目があるような配置が良いと思います。

中村委員：地域拠点に役場の出先はできるのでしょうか。

事務局：できる予定です。

佐々木委員長：施設内で何かセキュリティで気になることはありますか。
体育館の出入り口は地域の方は使いますか。

東畑建築事務所：普段は子供たちだけです。学校開放の時には、地域の方々も使用します。

中村委員：多目的ホールの床材はなんのでしょうか。

東畑建築事務所：フローリングです。

上田委員：この施設ができるとなくなるのは公民館ですか。集会所は残りますか。

事務局：和戸公民館がなくなります。

金野委員：メディアセンターのトイレを地域の方々が使うとすると、掃除について気になります。

東畑建築事務所：トイレについては、地域拠点側を使用してもらう等の運用を検討していくことになります。

唐松委員：壁は壁でしょうか。透明な壁とかあるんでしょうか。

東畑建築事務所：現在、いろいろと悩んでいます。耐力壁との兼ね合いもありますが、透過性のあるものを探しています。

荒木委員：ガラス張りだと、災害や電などによる危険性は少し心配です。

東畑建築事務所：昔に比べ、怪我がしにくいガラスにはなっています。

川野委員：体育館の見とおしがいい造りはどのような感じでしょうか。

東畑建築事務所：ガラスと格子扉を併せたものを検討しています。

荒木委員：多目的トイレについて、大人が利用できる折りたたみのベッドがあった方が良いでしょう。

東畑建築事務所：検討していきます。

金野委員：自転車置き場とスロープはどこになりそうですか。

東畑建築事務所：自転車置き場については、現在悩んでいます。
スロープについては、段差がないのでいらないと考えております。

唐松委員：車と自転車の動線は離したいですね。

穴戸委員：地域との交流のセキュリティは心配ですが、私も読み聞かせで学校に現在出入りしている中で、子供のためにとの思いで活動しています。
地域の方々にも子供のためにとの意識を持ってこの地域拠点施設を利用してもらうことも大事なと思います。

唐松委員：どんぴ憲章のようなものがあったもいいとおもいます。

斎藤委員：地域への貸し出しについて、町内だけなのか県内なのか気になりました。

事務局：今後地区コミュニティセンターの位置付けになると、誰でもつかえる形となります。今後ルール作りを検討していくことになると思います。

佐々木委員長：第2回のWSの中で、「人」と「人」を繋ぐテーマもありましたが、来年度以降役場の動きはありますか。

事務局：来年度、現在の地域振興担当が独立して課になりますので、より検討を進めていくことになると思います。

6. その他

事務局：今後のスケジュールについて、共有いたします。

基本設計につきましては、2月末に完成予定です。

その後、3月から実施設計の取組を進めていきます。

引き続き、皆様からのアイデア等をいただければと思います。

佐々木委員長：実施設計開始後のスケジュールはどうなりますか。

事務局：より具体的な検討になります。

諸室を詰めていくこと、運営等について検討していくことになります。

皆さんからも御意見等をいただければと思います。

東畑建築事務所：実施設計ではコンセントやスイッチ等細かいところを、検討していきます。

皆さんと議論していければと思います。

穴戸委員：どんぐりピアノについて、どうしていくか時間をかけて議論する場があってもいいと思います。

どんぐりピアノの音は出ますが、完全に修理されていないと思います。

佐々木委員長：施設の完成後を見据えて、活動していくことも大事だと思います。

視察に行った志木小では、情報交換の場があるとのことでしたので、

話し合いの場があってもよいのではと思います。

来年度のテーマ等にもなっていくことになると思います。

事務局：地域拠点施設の開設に向けて、どんぐりピアノがつかないだご縁もありますので、来年度以降どうしていくのが良いか検討をしていければと思います。

金野委員：1月23日に児童ワークショップを予定しています。

子供たちの声が設計に反映されていくことは、良いことだと思います。

どんぐりピアノにつきましては、毎年調律しています。

今の音色も良い音色だと思います。

子供たちのために、皆様いつもありがとうございます。

7. 閉会